

ウィルフレッド ホフマン ドイツ人社会学者 外交官 (半)

:

明:元アルジェリア大使のドイツ人外交官による改宗 。第二部。

目:[事新改宗者ムスリムの逸 著名人](#)

より: ウィルフレッド ホフマン

日 07 Sep 2015

集日 07 Sep 2015



「唯一 二なる真 の神であり、生まれもしなければ生みもせず、何一つ似通るものなき神への混じり のない本来の信仰として、私はイスラ ムの 点からそれを るようになった。部族的な神の理神 や三位一体 の代わりに、クルア ンは最も明快かつ 刀直入、そして少なくとも神の 人的概念については 史的に最も先 的であるゆえに最も抽象的なものを示してくれた。」

「クルアンの主たる存在、そしてその理教的教えは、深い真性を披きつたものとして、私に
い印象を与えた。それは“黄金のごとく素晴らしい”ものであったため、ムハンマド
による言者としての使命の信託には一片の疑いもなかった。人性を理解する者である
なら、クルアンの形をとって神から人に与えられた“すべきこと すべきでないこと”にお
ける永久の智慧を感じずにいることなどできるはずはないのである。」

1980年に息子の18歳の誕生日を祝うため、彼は哲学的な地から疑念の余地なく真理であると
あるとみなされる事柄を含んだ、12ページの写本を用意しました。彼はムハンマドアフ
マドラスルという名のケルン在住のムスリム指導者に、それを授けられました。それを
受けた、ラスルはもしホフマン博士がいたことを彼自身が信じているのなら、彼はムス
リムであると言いました。まさにそれが数日の1980年9月25日、彼が「私は唯一なる真
の神以外に神はなく、ムハンマドは神の使徒であると 言する」きっかけとなりました
。

ホフマン博士はムスリムになったあとも、ドイツ人外交官 NATO として15年 続けました
。彼は「 差別を受けたことはなかった」と言っています。彼は改宗から3年半の1984年
、当のドイツ大使だったカール・カルステン博士から、ドイツ 邦共和国功 章を受 けました
。ドイツ政府はムスリム 国に派遣されるすべての外交使 員に、彼の著「ドイツ人ムスリ
ムの日」を分析のツルとして配布しています。彼は 職務の任 務によって宗教の 実践を妨げられ
ることはありませんでした。

以前は赤ワインに目がなかったものの、彼は 在国ではアルコールの 飲 みを断っています。外
交官として、彼は 頻りに外国人の 客と食事会を共にします。彼はラマダ ン中であれば、
そうした食事会で空の皿を前にして出席します。1995年、彼はイスラ ムの 殉 難に献身する
ため、外交官を自ら辞任しました。

アルコールが原因で引き起こされた社会と 人への 影 について、ホフマン博士は自らに
起きた事件について言及します。1951年に大学生だった彼は、アトランタからミシシ
ッピ州に旅行していました。彼がミシシッピ州のホリ スプリングに着いたとき、 酒 によ
る 事件が突然彼の 前に正面 突 突してきました。彼は口の 舌 と、19本の 指 を失うという重 傷を 受 けまし

た。

と下唇の手をた、病院の外科医はこう言って彼を慰めました。「通常の状況下では、一人としてそのような事故を生き延びることはないのですよ。神はあなたのために何か特別なことを用意されていることでしょう。」そして日、「つり包にぶら下がった腕、包で固定された膝、ヨウ素によって色し、口のいが目立つ」で、足を引きずりながらホリスプリングの病院を退院した彼は、外科医の言の意味について考えていました。

彼はだいぶになり、その意味を知ることになります。「遂に、その30年、私がイスラムの信仰を言したのと同じ日に私が生き延びたことの真の意味が明白になったのである。」

その信について、彼はこう明言します。

「私が人的に、疑いの余地なく信することのできると信じる、あらゆる哲学的真理を体系的にきすことと、そのさらなる正性とさを追い求めることにしばし取りんできた。その努力の中で私は、不可知者による一般的な姿は知的ではないということに付いたのだ。それはつまりに、人は信じるという断から逃れることはできないのであり、我々の周りの存在が造されたということは明白であり、イスラムは疑いなく全体的なと和するのだということである。それゆえ私は段を踏んで、自我を忘れほとんど意に、自分はムスリムなのではないかと感じ初め、やがて自分がムスリムであるということにづいたのだ。ただ、最の一を踏み出すことだけが残っていた。正式に改宗を行うことだ。

そして今在、私はムスリムなのだ。私はたどり着いたのだ。」

この事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/125>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。